

プログラム及び参加者紹介

プログラム

9月20日(水)(議長：加賀谷 貞司 防衛研究所戦史部長)

オープニング・セッション

- 1030～1035 開会挨拶 石井 道夫(防衛研究所長)
- 1035～1040 開会に寄せて 守屋 武昌(防衛事務次官)
- 1040～1100 議長からの趣旨説明(発表者の紹介等)
- 1100～1200 基調講演 神谷 不二(慶応義塾大学名誉教授)
「朝鮮戦争と私 - 研究を回顧して - 」
- 1200～1300 特別講演 白 善燁(ペク・ソンヨップ)(元韓国陸軍参謀総長)
「私が経験した朝鮮戦争とその遺産」
- 1300～1430 昼食休憩

第1セッション

- 1430～1500 発表 朴 明林(パク・ミョンニム)(韓国、延世大学校教授)
「朝鮮戦争と韓半島
- 社会・政治・イデオロギー的変革の視点から - 」
- 1500～1530 発表 庄司 潤一郎(防衛研究所戦史部第1戦史研究室長)
「朝鮮戦争と日本
- アイデンティティ、安全保障をめぐるジレンマ - 」
- 1530～1550 休 憩
- 1550～1610 コメント 葛原 和三(陸上自衛隊幹部学校戦史専門教官)
- 1610～1700 第1セッション総合討議

9月21日(木)(議長：加賀谷 貞司 防衛研究所戦史部長)

第2セッション

- 0930～1000 発表 張 小明(ジャン・シャオミン)
(中国、北京大学国際関係学院教授)
「朝鮮戦争と中国 - 戦略、国防及び核開発への影響 - 」
- 1000～1030 発表 バシリー・ミキーエフ(ロシア、ロシア科学アカデミー
世界経済国際関係研究所北東アジア安全保障研究センター長)
「朝鮮戦争とロシア - 朝鮮半島政策への影響 - 」
- 1030～1050 休 憩
- 1050～1110 コメント 安田 淳(慶応義塾大学教授)
- 1110～1200 第2セッション総合討議
- 1200～1330 昼食休憩

第3セッション

- 1330～1400 発表 アラン・ミレット(米国、ニューオーリンズ大学教授)
「朝鮮戦争とアメリカ - 戦争と内政 - 」
- 1400～1430 発表 マイケル・ホプキンス(英国、リバプールホープ大学教授)
「朝鮮戦争とイギリス - 英米関係へのインパクト - 」
- 1430～1450 休 憩
- 1450～1510 コメント 小谷 賢(防衛研究所戦史部第1戦史研究室教官)
- 1510～1600 第3セッション総合討議

総合討議

- 1605～1655 総合討議・議長総括
- 1655～1700 閉会挨拶 林 一也(防衛研究所副所長)

参加者紹介

議長

加賀谷 貞司

現職：防衛省防衛研究所戦史部長

略歴：防衛大学校卒業。第10師団幕僚長、陸上自衛隊幹部学校教育部長、第2高射特科団長、陸上自衛隊幹部学校副校長など歴任。2006年退官。元陸将補。2006年4月から現職。

基調講演者

神谷 不二

現職：慶応義塾大学名誉教授、日本世界戦略フォーラム理事長

略歴：東京大学法学部卒業。法学博士。大阪市立大学法学部教授、慶応義塾大学法学部教授、東洋英和女学院大学国際社会学部長、コロンビア大学客員教授など歴任。また、日本学術会議会員、防衛学会会長、国際安全保障学会初代会長、韓国国際関係研究所在外顧問なども務める。

著書：『朝鮮戦争』（韓国語版あり）『現代国際政治の視角』、『戦後史の中の日米関係』、『朝鮮半島論』ほか。

特別講演者

白 善燁（ペク・ソンヨップ）

現職：国防部軍史編纂諮問委員会委員長

略歴：満州国軍官学校卒業。終戦時、満州国陸軍中尉。朝鮮戦争時、第1師団長、第1軍団長、休戦会談韓国代表、陸軍参謀総長、戒厳司令官などを務める。1953年、韓国軍初の大将。第1野戦軍司令官、再度陸軍参謀総長、連合参謀本部議長など歴任し、退役。その後、駐中華民国大使、駐仏大使、駐カナダ大使、交通部長官、韓国総合化学工業社長など歴任。日本国勲一等瑞宝章受賞。

著書：『韓国戦争一千日』、『対ゲリラ戦』、『若き将軍の朝鮮戦争』、『指揮官の条件』、『朝鮮半島対話の限界』ほか。

発表者（発表順）

朴 明林（パク・ミョンニム）

現職：延世大学校教授、金大中大統領図書館史料センター長

略歴：高麗大学校大学院博士課程修了（政治学博士）、高麗大学校教授、ハーバード大学客員研究員など歴任。

著書：*The Coming of the Korean War, Vol. I: The Decision-Making and Outbreak (1996)*
The Coming of the Korean War, Vol. II: The Origins and Causes (1996)
*The Requiem for Peace: A Critical-Constructive Reflection on the Korean War (2002)*ほか。

庄司 潤一郎

現職：防衛省防衛研究所戦史部第1戦史研究室長

略歴：筑波大学卒業、同大学院修了（修士）、1986年防衛研究所助手、その後所員、主任研究官を経て、1999年から現職。

著書：『変動期の日本外交と軍事』（共著）、『大正期日本のアメリカ認識』（共著）、『日米戦略思想史—日米関係の新しい視点』（共著）ほか。

張 小明（ジャン・シャオミン）

現職：北京大学国際関係学院教授

略歴：北京大学国際関係学院博士課程終了（国際関係学博士）、ウッドロー・ウィルソンセンター、ハーバード大学フェアバンクセンター、SIPRIなどの客員研究員を経て現職。

著書：*The Cold War and its Legacy (1968)*
George F. Kennan's Containment (1994)
*China's Relations with Her Neighbors (2003)*ほか。

バシリー・ミキーエフ

現職：ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所中国・中央及び北東アジア安全保障研究センター長

略歴：ロシア科学アカデミー世界社会主義システム研究所博士課程終了(経済学博士)。在朝鮮大使館顧問兼政治部長、在リトアニア大使館筆頭書記を経て現職。

著書：*Globalization and Asian Regionalism: Challenges to Russia* (2001)
North-East Asia Globalization: Regarding Russia, China and Korea (2003)
China: Threats, Risks and Challenges of Development (2005) (編著) ほか。

アラン・ミレット

現職：ニューオーリンズ大学歴史学部教授兼同大学アイゼンハワー・アメリカ研究所長兼Dデー博物館長

略歴：オハイオ州立大学大学院博士課程修了(歴史学博士)。オハイオ州立大学歴史学部教授、韓国国防大学客員研究員などを歴任。韓国国防省編『朝鮮戦争』(全3巻)の編集顧問。

著書：*The War for Korea* (2002)
Their War for Korea, 1945-1950: A House Burning (2005)
A War to be Won: Fighting the Second World War (2000) (共著) ほか。

マイケル・ホブキンス

現職：リバプールホープ大学教授

略歴：リーズ大学大学院博士課程修了(博士)。グゼヴェリアン大学教官(歴史学)、リバプールホープ大学講師(歴史学)を経て現職。王立歴史協会会員。

著書：*Oliver Franks and the Truman Administration: Anglo-American Relations, 1948-1952* (2002)
The Cold War, 1945-1991 (2005) (共著) ほか。

コメンテーター（登壇順）

葛原 和三

現職：陸上自衛隊幹部学校戦史専門教官（1等陸佐）

略歴：北海学園大学卒業、幹部学校指揮幕僚課程修了、筑波大学史学研修後、陸上自衛隊幹部学校戦史教官、第11戦車大隊長、防衛大学校教授、防衛研究所所員を経て、2006年から現職。

著書：『朝鮮戦争（上）』（共著）、『戦場の名言』（共著）、「北鮮軍は朝鮮戦争から何を学んだか」『陸戦研究』（543号）、「朝鮮戦争と警察予備隊」『防衛研究所紀要』（第8巻第3号）ほか。

安田 淳

現職：慶應義塾大学法学部教授

略歴：慶應義塾大学大学院法学研究科（政治学専攻）博士課程修了。防衛研究所研究部教官、慶應義塾大学法学部助教授など歴任。米国・スタンフォード大学訪問研究員。

著書：「中国の朝鮮戦争停戦交渉 - 捕虜送還問題と軍事過程」『法学研究』（第77巻第5号）、「中国の朝鮮戦争停戦交渉 - 問題の収斂と交渉の政治化」赤木完爾編著『朝鮮戦争 - 休戦50周年の検証・半島の内外から』ほか。

小谷 賢

現職：防衛省防衛研究所企画室情報発信調整官 兼 戦史部第1戦史研究室教官

略歴：立命館大学卒業、ロンドン大学大学院修了（修士）京都大学大学院修了（学術博士）。2004年防衛研究所教官、2006年から現職。

著書：『イギリスの情報外交 - インテリジェンスとは何か』、*The Pacific War Companion*（共著）ほか。

朝鮮戦争の再検討 - その遺産 -

平成 18 年度戦争史研究国際フォーラム報告書

発行日 平成 19 年 3 月 31 日

編集・発行 防衛省防衛研究所

〒153-8648

東京都目黒区中目黒 2-2-1

電話:03-5721-7005

FAX:03-3713-6149

E-mail:planning@nids.go.jp

ISBN 978-4-939034-36-7

© 無断転載を禁ず。